

3月を迎えるにあたり



能登半島地震から2ヶ月がたとうとしています。子どもたちが、昨年植えたチューリップが芽を出し始め、季節は冬から春へと移り変わるような雰囲気を松波小でも感じるようになりました。季節の移ろいととも、今年度の教育活動も間もなく修了の時期となります。

先日、卒業生との集いが行われました。松波小学校校舎が被災しているため、松波中学校多目的室での開催となりました。多目的室のスペースの関係から例年とは違った内容での開催となりましたが、プレゼントや飾り付け、運営などを下級生が一生懸命頑張り、6年生に感謝の気持ちを伝えようとする思いはしっかりと伝わったような気がします。6年生は、ダンスパフォーマンスを披露し、6年生の秘めている熱い思いを伝えていました。また、将来の夢の発表では、自分のなりたい職業を大きな声で発表し、見ている側が圧倒されるくらい迫力のある発表でした。卒業生も在校生も心に残る集いになったのではないのでしょうか。

松波中学校での授業を開始し、間もなく5週間が過ぎようとしています。子どもたちには、限られた条件の中での学習となり大変不自由な思いをさせていますが、前向きに、よりよく学習や学校生活を進めることを考え、行動してきた姿は実に立派でした。もっと子どもたちが自由に過ごすことができればという思いはありますが、現状を考えると残念でなりません。

松波中学校での仮の職員室は、6年教室の後ろを仕切って設けられており、卒業を控える6年生の様子を毎日感じ取ることができます。6年生は、見た目は大変大人びた表情を見せることがあっても子どもらしい感性を失わず、自分のことと同じように周りの人の気持ちがわかり、担任の先生と明るく楽しく過ごしています。人と人とのつながりを大切にするその姿から、温かな学級の雰囲気が醸し出されていました。また、卒業式で披露する歌の練習も始まっています。6年生は、歌も好きで心をこめて歌うことができるので、卒業式の参列者の心に届く凜として清楚な歌声を披露してくれるものと思います。6年生には、松波小学校で得た経験をいつまでも忘れることなく、歩み続けてほしいと願っています。16名の卒業生に明るい未来が拓けますように。

保護者の皆様、地域の皆様、PTA各委員を始め、PTA活動にご尽力いただいた皆様には1年間を通して本校の教育活動にご協力をいただき、ありがとうございました。大変お忙しい中、松波小学校の子どもたちのために、お心を寄せていただきましたことに御礼申し上げます。今後ともご協力を得ながら、子どもたちの成長を願い、継続して教職員一同、意を尽くしてまいりたいと思っています。

能登町立松波小学校
校長 宮本 秀人